

| | | | | | |
|------|---------|----|----|-----|-----|
| 科目名 | 日本音楽の歴史 | 形態 | 講義 | 開講期 | 春学期 |
| 担当教員 | 新海 立子 | 単位 | 2 | 年次 | 3 |

＝授業科目の目標＝

日常生活で聴くことは稀でも、様々な日本音楽は生き続けている。私たちの世代まで受け継がれてきた、豊かな音楽芸能を聴く耳を持ちつつ、日本音楽の歴史的流れについて理解し、説明できるようになることを目標としたい。

＝履修の条件と学習の方法＝

鑑賞をはさんだ講義形式である。各自、筆記用具を持参し、必ず自分のノートに授業内容を書き取ってください。毎回、授業のまとめと気づいたことをレポートとして提出します。真剣に聴き、考えて下さい。携帯端末使用は禁止します。

＝授業内容＝

吉川英史著『日本音楽の歴史』の各章を参照しながら、日本音楽のそれぞれの時代における音楽の様相、各ジャンルの源流や成長、隆盛、衰退の歴史を考察する。具体的には、雅楽、声明（仏教音楽）、能楽、箏曲、尺八、琵琶楽、文楽、歌舞伎、民謡、わらべうたなどに言及する。

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認
- 2回 原始民族音楽時代
- 3回 大陸音楽輸入時代：5世紀から奈良・平安時代にかけて
- 4回 大陸音楽消化時代1：平安時代の遣唐使停止以後
- 5回 大陸音楽消化時代2：雅楽
- 6回 民族音楽興隆時代1：能楽
- 7回 民族音楽興隆時代2：平家から三味線伝来まで
- 8回 民族音楽大成時代1：近世箏曲の確立
- 9回 民族音楽大成時代2：歌舞伎と長唄
- 10回 民族音楽大成時代3：文楽人形浄瑠璃
- 11回 民族音楽大成時代4：三曲合奏
- 12回 洋楽輸入時代：明治時代
- 13回 洋楽消化時代：大正から昭和、第2次世界大戦終了まで
- 14回 再び民族音楽興隆時代1：第2次世界大戦後から現代まで
- 15回 再び民族音楽興隆時代2：現代日本音楽の諸相

＝成績評価の方法と評価の基準＝

毎回提出レポート50%、学期末レポート試験50%の割合で総合評価します。授業を充分理解し、参加に問題がない場合はA評価、欠席遅刻がいちじるしい場合はB・C評価、授業をいちじるしく妨害した場合はD評価もありえます。

＝テキスト（必携）＝

特になし